

掲載日(号) 平成 23 年 2 月 6 日 (日) 掲載

掲載媒体 静岡新聞 朝刊

掲載事業等 サイエンスカフェ「こわ〜い? サメの夜話」

先端研究と 科学コミュニケーション 市民つなぐ

静岡市駿河区の静岡科学館「こわ〜い?」は本年度から、科学の先端研究と市民をつなぐ「科学コミュニケーション活動」の推進に取り組んでいる。科学技術振興機構(東京)が進める「先進的科学館連携推進事業」の一環、5カ年計画で、企業、大学など研究機関とのネットワーク作りや人材育成、実践の場の創出を通じ、地域に活動を根付かせる考え。

静岡科学館が推進

参加者の双方のやりとりを仲介した。冒頭、高田理事長にサメのイメージを聞かれ参加者が書いたのは「怖い」「人を襲う」などの言葉。田中教授がサメの分類を説明し「494種類いるサメのうち、人を襲うのは10種類くらい」などと語ると、感心したようにうなずく人も。同美術館で開催していた企画展とがらめ、生き

専門知識 手法共有や人材育成

江戸時代の博物画を魚類の専門家の目で見ると。学芸員や講師と一緒に展示作品を見学したサイエンスカフェ。静岡市駿河区の市美術館



制を整える。会に積極的に関わって担当の同館主事高橋みい、科学技術文化をどりさんは「科学技術を根付かせたい」と意気込みに、地域住民が社む。

静岡市美術館で1月21日の最新事情を紹介し日に実施した「サイエンス」小学校入学前から40スカフェ。「こわ〜い」代までの約20人が参加。サメの夜話」と題し、NPO法人ミュージアム東海大海洋学部の田中彰 研究会の高田浩二理事長教授が講師を務めサメ研 が進行役となり、講師と

企業、大学との連携強化

企業や大学など研究機関とのネットワーク作りも、本年度から試行が進む。19日には、した米カリフォルニア工科大 予定、近隣の社会教育施設などとの共同イベントも推進する。とともに、事業

知識を分かりやすく伝達。来年度は事業に賛同する企業や研究機関を開拓できる「科学コミュニケーション」の養成は、事業し、科学コミュニケーションのノウハウや人材の柱の一つだ。同館は科学技術振興機構の助成が決定した昨年11月以降、科学部などに所属する高校生有志が館内にブースを設け、来館した子どもたちに得意分野の知識を伝える「科学の広場」など、学生コミュニケーションの養成を意図したイベントを開催し、新設し、専属スタッフも雇用して本格的な推進体制を整える。